

八戸市協働のまちづくり市民会議 みんなのまちづくり ニュースレター

No.4 特集号

- 発行日 2005年3月10日
- 発行 八戸市協働の
まちづくり市民会議

八戸市協働のまちづくり市民会議 ホームページ <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/machi/machidukuri/index.htm>

地域コミュニティ振興指案を市長へ答申



▲振興指針案を手渡す大沢委員長(左から3番目)

八戸市協働のまちづくり市民会議コミュニティ振興検討委員会では、26回にわたる委員会での検討結果に基づいて「八戸市地域コミュニティ振興指針案」をとりまとめ、平成17年2月17日に市長に答申しました。

指針案は、地域コミュニティ振興の方向性を定める内容となっており、市と住民や町内会、公民館、学校などの役割、住民自治を推進していく上での手法などが盛り込まれています。

八戸市協働のまちづくり市民会議

地域コミュニティ振興検討委員会

委員長 大沢 泉

雪の日の夜遅くまでの会議、暑い日の研修会への参加、雨の日の公民館でのヒアリング、市民へのアンケート、自宅に持ち帰っての休日の原稿作成・足かけ三年にわたる全国初の市民自身の手による「地域コミュニティ振興指針案」が答申されました。

行政主導のまちづくり、行政依存のまちづくりから市民・事業者・行政が一体となって「だれもが住みたいまち八戸」の実現をめざした地域コミュニティ振興指針です。

もとより指針は、地域づくりの総論的、一定の方向性を示したものにほかなりません。この指針に基いて、多くの市民がそれぞれの活動の場で「だれもが住みたいまち八戸」を共に築き上げていきたいと思えます。

振興指針策定にあたって研修会の準備、議事録の作成、調査におけるの労苦を惜しまなかった市民連携課の皆さんに感謝します。



「地域コミュニティ振興指針案」の概要

市民主体のまちづくりを実現し、「だれもが住みたいまち八戸」を実現していくためには、生活の場であり、最も身近なまちづくりへの参加の場である地域コミュニティの力（地域力）を高め、地域コミュニティの振興を図ることが不可欠です。

この指針案は、私たち、「地域コミュニティ振興検討委員会」から、行政主導のまちづくりを見直し、市民自らの手によるまちづくりを実現するため、今後のコミュニティの役割や方向性、市が取り組むべき施策の方向性について提言したもので、その主な内容は次のとおりです。



民にとって、安心して安全な心豊かな生活へつながるものという考え方が示されています。

特に、地域特色を生かしたまちづくりや行政依存から抜け出す必要性などが掲げられています。

■地域活動の推進

地域住民を地域づくりの主体として位置付け、町内会や地域の公民館のなど既存の地域コミュニティの担い手の役割や機能を見直しています。

町内会には、相互扶助の機能や生活環境の維持・改善、防犯や防災への取り組み、親睦機能など多様な機能があることや町内会活動への理

■地域コミュニティ振興の意義と必要性

地域コミュニティの力を高め、活動を活発化していくことは、地域のまちづくりを住民一人ひとりが考えることであり、ひいては、地域住

指針案について

ご意見・ご感想をお聞きしました(1/22 研修会場で)

高館連合町内会 小林きみ 様

自分にとって初めての内容で、今まで聞いたこともなかったし、難しいところもありましたが、とても勉強になりました。町内に持ち帰って、お年よりの人たちもいれて皆で話し合ってみたいと思います。研修会などこれから出来るだけ参加したいと思います。誘いあって。

日計ヶ丘町内会 新田奉文 様

会長になってまだ一年たっていないので、どうやってまとめていいかと思っていたところだったので大変参考になりました。一番心に残った言葉は「自分の住んでいる町内を知る・考える・伝える」でした。さっそく自分のできることから実践していきたいです。

桜ヶ丘町内会 原田栄一 様

これからの町内会の活動にとっても参考になると感じております。

具体的にどのように展開しているかを知りたい。今、マンネリ化して去年と同じでという傾向が強いので、どの程度改革していけばいいのか糸口というか、突破口がほしい。活用したいと思います。

解の推進の必要性などが掲げられています。

また、地域住民にとって身近な公共施設である公民館は、今後、生涯学習の場だけではなく、地域の中核施設として、人と人との交流の拠点「交民館」としての役割の重要性などが提言されています。

このほかにも学校と地域との連携の推進や市の役割と地域との関係の見直し、市民活動団体等との連携などが盛り込まれています。

■地域力の向上を目指して

地域自らが自立した存在として、力を高めていくことが必要であるという認識のもとに、意識改革「地域は自らの手でつくる」や地域の現状を知り特色を知る必要性、多様な知識経験・技術を持った人々の参画、多様性を生かした地域コミュニティづくりの重要性などが示唆されています。

■地域コミュニティ自治の推進

この章では、地域の自治力を高めるための組織のあり方について新たな自治組織の創設や範囲・規模などについて検討の必要性について記載されています。

■地域コミュニティの振興に向けて

地域の自治力を高め、特色を生かしたまちづくりを進めていくための具体的な施策を提言しています。主なものは次のとおりです。

- ①地域コミュニティ計画の策定（地域住民自身の手で地域の将来像を考え、実現に向けた方向性や事業計画等を定めるもの）
- ②地域コミュニティ活動基金の創設
- ③担当窓口の一本化
- ④市民活動団体との交流の場の創設



委員からのメッセージ

産みの苦しみは、
まさに新しいものを
創造する
喜びでした。



仕事を終えてからの夜の委員会

これほど真剣に取り組んだ審議委員会は初めて！！

審議内容から運営まで完全に自主自立.これからの地域自治のあり方の見本のようなものだった…。事務方が裏に回る忍耐力はさすが担当課。30回近い夜の会議に市職員は無欠席、日常超多忙な委員の皆さんも必ずかけつけて来る。新しいまちの夜明けに夢をかける人たちであった。

ご苦労様でした。

地域コミュニティ振興検討委員会副委員長

蟹沢幸治

コミュニティとは？地域とは？そこに暮らす住民や地域行政の果たす役割とは？？住民が積極的に参加して行なうまちづくりとは？「コミュニティ、地域、まちづくり」が頭の中から離れる事のない2年数ヶ月でした。地域に暮らしながら、地域振興やとりわけ「コミュニティ」という言葉には漠然としたイメージしかなかった私ですが、会議の度に重くなってゆくファイル、研修会、公民館へのヒヤリング、そして宿題などを通じて、「コミュニティ」の姿が徐々に形になってきたような気がします。これからは、自分が現在行なっている活動を、どのように「地域振興」や「まちづくり」につなげていけるのかが、私の新しい「宿題」なのではないかと思っています。大沢委員長さんをはじめ、委員のみなさま、市民連携課のみなさま、本当にお疲れさまでした。

稲垣 真理子 委員



委員からのメッセージ

今回委員になって、あらためて地域の大切さを実感しました。若い人たちにとっては町内会は「うざい」かもしれません。けれどもその「うざさ」のなかに、人間臭さとあたたかさがあると私は思う。この指針が活用され、必要なくなる日を望んでいます。

慶長 洋子 委員

たくさんの経験と「であい」をいただいてこの日がきたことを嬉しく思います。知ることからはじまった委員会、公民館全館を訪問し聞き取りをしました。少しでも多くの市民の話聞くことを心がけ、それを活かす指針にすることを常に頭においての作業でした。市民、行政、事業者それぞれが立場と役割を担い、協力し合い、さまざまな課題と問題をのりこえていくことが出来たらと思います。

藤村 幸子 委員

市民が創る「住みよいまち八戸」
市町村合併を機に、自分たちのまちがこれからどうなるのか、どうするのかということについて、各地で大きな議論が交わされています。また、地域コミュニティにおいても住民自らが地域の将来像や課題を共有し、住みよい地域を創りあげていく必要が大きく求められています。「地域コミュニティ」とは、範囲のことではなく、まさにそこに暮らす多くの人々そのもの。

この指針が、多くの人々を動かし、「住みよいまち八戸」実現のために寄与できるよう心から願っています。

橋本 敦 委員

【お問合せ】

協働のまちづくり市民会議事務局
(八戸市市民生活部市民連携課内)

〒031-8686

八戸市内丸一丁目1-1

TEL 0178-43-2111 内線 627

FAX 0178-47-0746

E-mail:renkei@city.hachinohe.aomori.jp